

授業科目名	超音波エコーと体表解剖学		
主担当教員	工藤慎太郎	担当教員	福田大輔
授業概要			
四肢、体幹の運動器の触診技術を超音波エコーガイド下で行うことで、視覚的なフィードバックを与えながら行い、正確な触診技術を獲得します。また、超音波エコーで確認しながら徒手療法を行い、セラピストが実施している徒手的操作が、実際に器官へどのように影響しているかを可視化することで、治療技術の向上を行います。			
到達目標			
四肢、体幹の筋・腱、関節、靭帯、血管を詳細に触知し、動かす技術を獲得する。また、運動器をエコーで観察し、生体における三次元的位置関係を理解する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
運動器を治療するセラピストにとって、触診技術は最も基盤となる技術です。日常臨床で実施している技術を再検証し、さらにエコーを用いて検証することで、より正確な技術を獲得します。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	担当	
1	超音波エコーの基礎(実務家)	工藤	
2	運動器リハビリテーションと超音波エコー(実務家)	工藤	
3	肩の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
4	肩の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
5	肘の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
6	肘の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
7	頸部の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
8	頸部の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
9	腰部の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
10	腰部の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
11	股関節の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
12	股関節の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
13	膝関節の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
14	膝関節の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
15	足関節の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
16	足関節の超音波エコー(実務家)(企業等)(双方向)	工藤・福田	
成績評価方法と基準			割合
エコーを用いた徒手操作のプレゼンテーション動画を作成し、その動画の評価を行います。			100%

授業科目名	理学療法症例検討論		
主担当教員	角田 晃啓	担当教員	工藤慎太郎、白石匡
授業概要			
セラピストは患者に治療を提供します。その治療の経験を沢山積み上げていくことで、一歩ずつ成長していきます。この積み上げを丁寧に行うことが治せるセラピストに向けての第一歩です。そのために大切になるのが症例検討です。しかし、自分のやった治療を叙述的にまとめるだけでは、科学的なディスカッションになりません。症例検討の方法論を学び、実際に症例検討を行い、良質なディスカッションを経験し、各職場での症例検討会を充実させる方法を学びます。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・症例検討の方法論を知る。 ・症例検討の論点の整理方法を実施する。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
学生時代の症例検討会とは異なり、どういった視点で症例をまとめるのか？問題点の定式化の手法、症例検討のデザインを学び、実演し、活発なディスカッションを行います。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	担当	
1	問題点の定式化の方法論(実務家)	角田	
2	シングルケースデザインの方法(実務家)	角田	
3	ケース・プレゼンテーションの方法論(実務家)	角田・白石	
4	ケース・プレゼンテーションの方法論(実務家)	角田・白石	
5	症例検討会(実務家)(双方向)	角田・工藤	
6	症例検討会(実務家)(双方向)	角田・工藤	
7	症例検討会(実務家)(双方向)	角田・工藤	
8	症例検討会(実務家)(双方向)	角田・工藤	
成績評価方法と基準			割合
ケース・プレゼンテーションでのプレゼン内容と発表に対する質疑によって総合的に評価する。			100%

授業科目名	基礎バイオメカニクスと理学療法		
主担当教員	前田 薫	担当教員	工藤慎太郎
授業概要			
ヒトの動作の障害を改善するセラピストにとって、動作の運動学および運動力学的理解は重要になる。日常臨床で実施している動作観察と工学的手法を用いた解析の共通点、および限界点を学び、双方の利点を考えながら、最新の動作解析機器の臨床応用を通じて、日常臨床での経験を可視化する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・動作を運動学、運動力学的に理解する。 ・症例におけるよくある動作異常を運動学・運動力学的に理解する。 ・工学機器を用いて、症例の動作の改善を定量的に示すことができるようになる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
動作の障害を改善するセラピストにとって、動作の運動学・運動力学的理解は重要になります。この講座を通じて、動作解析機器を用いて、日常の臨床での疑問や経験を可視化してみましょう。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	担当	
1	バイオメカニクスの基礎と動作分析(実務家)	前田	
2	バイオメカニクスの基礎と動作分析(実務家)	前田	
3	バイオメカニクスの基礎と動作分析(実務家)	前田	
4	機器を用いた動作分析(VICON)(実務家)(双方向)	工藤	
5	機器を用いた動作分析(VICON)(実務家)(双方向)	工藤	
6	機器を用いた動作分析(IMUセンサー)(実務家)(双方向)	工藤	
7	機器を用いた動作分析(IMUセンサー)(実務家)(双方向)	工藤	
8	動作分析プレゼンテーション(実務家)(双方向)	前田・工藤	
成績評価方法と基準			割合
機器を用いた動作分析のプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの内容により判定します。			100%

授業科目名	運動器治療の多職種連携		
主担当教員	工藤 慎太郎	担当教員	川畑浩久、和田誠、 兼岩淳平、谷掛洋平
授業概要			
<p>従来の理学療法は後療法（術後のリハビリテーション）が多かったが、現在は保存療法も主たる治療方法の一つであり、保存療法において理学療法士が占める役割は大きい。特に患者に生じている疼痛の原因を導き出すことは良い理学療法士の条件であると言える。そして、これを多職種と共有することで、よりスムーズな治療を展開することが可能になる。この講座では、多職種連携するために必要な理学療法士のスキルを理学療法士と整形外科医などの多職種で考えて、さらに多職種を理解するための画像診断や薬理、また最新の医療について知る。</p>			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・運動器治療における理学療法士の役割を知る。 ・運動器治療に関わる多職種と理学療法士の関わりを知る。 ・運動器治療の最新のトピックスを知る。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
<p>ゲストスピーカーによる講義も多くなります。自分の日常臨床での疑問をぶつけて、相互理解を図ってください。</p>			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	担当	
1	運動器理学療法での疼痛出現組織の評価（実務家）	工藤	
2	関節拘縮治療における物理療法の効果（実務家）	川畑	
3	疼痛治療における物理療法の効果（実務家）	工藤	
4	運動器治療における薬物療法（実務家）	和田	
5	運動器治療における医師と理学療法士の連携（実務家）	兼岩	
6	運動器治療における医師と理学療法士の連携（実務家）	工藤	
7	運動器治療における医師と理学療法士の連携（実務家）	谷掛	
8	運動器治療における医師と理学療法士の連携（実務家）	和田	
成績評価方法と基準			割合
レポートによって採点する。			100%